

MIS X-010 モルヒネって正に諸刃の剣【もろはのつるぎ】

(「けん」とか「やいば」とか言いたくない！)

モルヒネの話

モルヒネって、アヘンに含まれるアルカロイドっていう種類の化合物で、依存性が強く、連用すると中毒になってしまうらしい。日本では「麻薬及び向精神薬取締法」でコカインなどと共に麻薬に指定されています。しかしその一方で癌の疼痛コントロールにも用いられるとって有用なものなんです。適正に使用すれば、依存も起らないし、死期を早めるとか頭がおかしくなってしまうなどの臆説も全くの誤解であることから、WHO（世界保健機関）でも標準的な疼痛緩和治療法としてモルヒネの使用を推奨しています。

欧米では積極的に使用されているモルヒネはしかし、日本では前述の誤った理解と偏見により医師・患者共に使用には抵抗があるらしく、その消費量は年々増えてはいるが他国に比べると随分少ないそうです。それはすなわち、日本の緩和医療（緩和ケア）が立ち後れていることの証明に他ならないってことなんだそうですよ。

ま、とにかくモルヒネは、毒性や依存性が高い麻薬として危険で怖い存在である一方、緩和医療には不可欠なものでもあり、副作用の観察と対処を怠らず適正に使用されれば、こんなに有効な鎮痛剤はない、っていうものなのです。

こういうの、何か言い方ありましたよね。。。なんだっけ？

りょうばのけん？
もろは？ やいば？

うーん、ちょっと思い出せないけど、使い方によってはいい面も悪い面もあるよ、みたいなそういう意味の慣用句ですよ。じゃ、きょうはここまで。さよ、おなら。

次回のしりとりにダムコラムは、モルヒネの「ね」から、「ねこだまし」
(予防接種→sugar daddy (シュガーダディ) →Diggy-MO' (ディギーモー) →モルヒネ→ねこだまし→ → → : お題のしりとりにクエストお待ちしています)

なるほど。

辞書で確認してみました。いくつかの辞書で調べてみたところ、最も正しいといえる表記は

「**諸刃の剣(もろはのつるぎ)**」のようです。

「両刃の剣(もろはのつるぎ)」や「双刃の剣(もろはのつるぎ)」も、「もろはのつるぎ」の読みで問題はないようです。また、「両刃の剣(りょうばのつるぎ)」を認めている辞書も結構あります。更に、【広辞苑第6版】と【岩波国語辞典第6版】では、「**諸刃の剣(つるぎ)**」の見出し語で、『「**諸刃の刃(やいば)**」とも。』と記載しています(共に岩波書店発行で編者も一部共通している。)

その他、【新編故事ことわざ辞典】(創拓社/1992)では、「**両刃(もろば)の剣**」を「徒然草にあるたとえ。《これ入道、両刃の剣にて人を切るに、振り上げざまに、我先づ切らるといふ譬へあり。まづその如く、人を悪に陥さんとて身の悪を囀るか(雪女五枚羽子板)》」と述べています。

【明鏡ことわざ成句使い方辞典】(大修館書店/2007)では「**両刃の剣**」を見出し語として、「1)」にふつうの意味解説、「2)「**両刃**」は「**諸刃**」とも書く」に続き「3) 本来は「**もろはのつるぎ**」だが、最近「**もろはのけん**」「**りょうばのつるぎ**」「**りょうばのけん**」などという人もある。」として、しかしそれが正しいか誤りかについては言及していません。

実際の用例では、「**諸刃の剣**」を「硬くて強い剣だが、それ故に刃こぼれしやすい」とか「愛が激しいほどいつ嫉みや恨みに変わってしまうかもしれない」などの意味を表すのに使用しているケースも散見します。あるテレビアニメのサントラに入っている「ヴィ○○○の○」という曲には以下のような内容の歌詞があります。歌詞をそのまま掲載することはできない(著作権!)ので、大意(Q 意識)を示します。→「愛ってすごい。どんなことも可能にしてくれるような力を持ってるんだ。でもね、だからこそ脆い**諸刃の剣**なんだよね、この愛によって自分が傷ついたとしても、決してあきらめちゃダメなんだ。」的なことを約 40 字程度で表現しています。「**もろい諸刃の剣**」というフレーズは、ずばり入っています。

これらの用例は単に「長所と短所がある」ことや「物事には必ず裏と表がある」ことの「物事の二面性」を表現したものであり、それに対して「**諸刃の剣**」は、『同じように切れる刃』によって、相手を切ることもできるが自分をも切ってしまう、という点が異なっています。つまり、刃の働き(効果・効能)が同一であるのにも関わらず、その『使い方によっての二面性』(使い方によるものであり、単なる物事の二面性ではない。)を表現したものの、という観点から言えば、「硬いけど脆い」とか「愛のウラオモテ」的な使用については誤用なのではないかと感じています。

代表的な辞書による意味は

- 「**使い方によって、一方ではよい結果をもたらすことがあるが、他方では大変な危険を招く恐れもあるもの**のたとえ。」(学研国語大辞典)
- 「**相手にも打撃を与えるが、こちらもそれと同じくらい**の打撃を受けるおそれがあることのたとえ。また、**大きな効果や良い結果をもたらす可能性をもつ反面、多大な危険性をも併せもつこと**のたとえ。」(大辞林)であり、

慣用句そのものの直接的な意味は

- ◇「**《両辺に刃のついた剣は、相手を切ろうとして振り上げると、自分をも傷つける恐れのあることから。》**」(大辞泉)です。

よく見るこの慣用句のバリエーションを「A の B」という形で表にすると

A		の	B	
①	諸刃(もろは)	の	⑤	剣(つるぎ)
②	両刃(もろは)		⑥	剣(けん)
③	双刃(もろは)		⑦	刃(やいば)
④	両刃(りょうば)		⑧	刀(かたな)

となり、多くの種類の表現型が考えられるし、ネット上にも様々な形で生きた用例として存在しています。

これらのバリエーションについては、概ね以下のような結論が導かれます。

- ①～④の「もろは」「りょうば」は意味は同じと解釈していいし、先に挙げた辞書の解説にもあるように、「もろは」の表記も「諸刃」「両刃」「双刃」、すべてアリである。
- ⑤⑥は「剣」の読み方が異なっているが、「つるぎ」も「けん」も意味上の違いはない。が、しかしこの慣用句においては圧倒的に「つるぎ」と読むべき。

- ⑦「刃(やいば)」は、「刃(は)」と同義と見なしてよいと思われるが、『は』でなく『やいば』と読んだときには、剣や刀などの刃物そのものを指す場合もあるらしい。しかし、「やいば」は「焼き刃」のイ音便であり、焼きを入れて鍛えた鋭く切れる部分そのものを指すのが本来の意味なので、これは誤りだとして除外したい。しかし、広辞苑が『もろはのやいばって言い方もあるよ』って認めてるから、仕方ない。誤りだとは言えません(譲歩)。
- ⑧「刀」とは、一般的に片刃で、大抵は「斬る」効果を高めるために反った形になっているものを言い、両刃のものは「刀」とは言わない。これは明らかに「剣」との置き換えはできないでしょう。

以上のことを整理して、辞書の扱いを含め筆者が感覚的にカウントすると、このような結果になります。

	点数	※これを言った人に対する Q の感想
a)もろはのつるぎ	100 点	お、それぞれ。
b)りょうばのつるぎ	90 点	「りょうば」の方が意味は通りやすいかもね
c)もろはのけん	55 点	「けんっ！」って元気に言いたいのかな
d)りょうばのけん	45 点	え？ 漁場の健？ ケンカっ早い感じの人？
e)もろはのやいば	25 点	オレが広辞苑派なら問題はないけど。。。

ってことで...

従って、今後は「諸刃の剣(もろはのつるぎ)」(100点)でいきたいです。

でも、ついうっかり「けん」とか「やいば」と言ってしまうように、正しく導く連想のチェーンリアクションを考えてみました。

モルヒネのような道具・手段

↓英語で言うと

tool like morphine (ツール ライク モーフィン)

↓語順を変えた違う表現にしてみる

morphine-like tool (モーフィンライク ツール)

↓簡略化して日本語で

モルヒネ ツール

↓口を横に開かないで言う

モルヒノ ツール

↓舌をなるべく動かさずにひらがなっぽく言う

もろひの つーる

↓確信的に「もろはのつるぎ」に寄せて言う

もろはの つーるぎ

↓ギラリと輝いて両刃で鋭くて危ないヤツ

もろはのつるぎ

できました。 **モルヒネツール**は もろは つるぎ **諸刃の剣** (推奨)
モルヒネツールギ